



マヤ女性に新たな生きがいをもたらす民芸品

「新しい挑戦をするということが、私たちにとても楽しいんです」

メキシコ南東部、キンタナ・ロー州のマヤ民族の村で出会った女性たちは、嬉々として語った。地域に住むマヤ女性の生計向上を目指すJICAのプロジェクトで、品質とデザインに優れた民芸品の製作・販売に取り組む女性グループのメンバーだ。11の村の女性たちが、バッグ、Tシャツ、装飾品、刺しゅう製品などを作っている。

農村に暮らすマヤ女性にとって、家事や畑仕事、家畜の世話の合間に作る民芸品はこれまで、祭りに集う人々や通りがかりの観光客を相手とした、ささやかな現金収入源に過ぎなかった。「民芸品作りに専念できる人があまり

いないのです」と、プロジェクトを担当するJICA専門家の戸田めぐみさんは言う。だが、質を向上させ、新たな販路を開拓し共同で生産・販売すれば、個人の負担を重くせず利益が出せるのでは?—そんな発想で、女性たちの挑戦は始まった。

「いろいろなサンプルを用意して、市場での反応を見てみたいの」。ハンモック作りの技術を生かしてバッグを製作する若い女性(23)は、仲間とともに大口注文に対応しながら、新しい商品開発にも意欲を燃やす。

「自ら仕事を生み出しているという実感が、活動の大きな支えとなっています」。女性たちは今、自分たちのアイデアで新たな試みを始めている。



自分たちで拾い集めてきたさまざまな種類の木の実で、装飾品作りに取り組む女性たち



特製の枠を用いて、天然植物繊維の素材でハンモックバッグを編む

★マヤ女性の作るTシャツ、ハンモックバッグ、ブレスレットを各1人にプレゼント! 詳細は38ページへ→



メキシコ

キンタナ・ロー州